

午後1時20分 開始

【広報広聴課長】 お待たせをいたしました。定刻の13時20分になりましたので、10月市長定例記者会見を始めさせていただきます。

最初にお知らせを申し上げます。敦賀記者クラブの方で異動がありまして、本日初めてこの会見に参加されます方がおられます。その方をご紹介申し上げます。読売新聞の藤戸さんです。一言ごあいさつお願いいたします。

【記者】 読売新聞の藤戸です。9月からまたこちらで勤務することになりました。以前にも敦賀にいましたので、ご存じの方も多数いらっしゃると思いますが、またよろしくお願いします。

【広報広聴課長】 ありがとうございます。

本日の会見の進行につきましては、お手元の次第のとおり、最初に市長のあいさつ、その後、事業発表をいたします。質問につきましては、最初は事業発表についてお願いしたいと思っております。事業発表に係る質疑終了の後、フリーの質疑応答へと進みたいと思っております。

なお、終了は14時20分を予定いたしておりますので、ご協力よろしくお願い申し上げます。

それでは、市長、よろしくをお願いいたします。

【市長】 いよいよ10月に入りまして、私どももクールビズをやむなくやめて、ネクタイをして今日は出てまいりました。本来ですと、クールビズはいいもんだなということで、もう少し延長したいなというふうに個人的には考えているところであります。

記者の皆さん方には、今日は会見ということでございまして、大変お疲れさまでございます。

最初、事業発表のほうから行わせていただきますので、よろしくをお願いいたします。

まず、敦賀港のフェリークルージングの開催でありまして、お手元にお配りしてございますとおり、10月11日に行います。前回も行いましたけれども、大変評判のいい事業でありまして、私ども敦賀は港町であるということをつい最近いろんなところにアピールできる一つの事業だというふうに思っております。あとはお天気がよくなってくれば何よりということでありまして。今もかなりの皆さん方の募集が来ているということでございますので、ぜひいいものにして、また港をアピールしたい、このように思います。

続きまして、つるが観光物産フェア2010の開催でございます。これも例年行わせていただいておりますけれども、これは私どもの観光の宣伝でありますし、また大変おいしいもののある私ども地域であります。また、いろんな歴史、伝統もございまして、そういういろんな関連したものを展示しながら、また51団体が参加をいたすわけでありまして、私どものいろんなおつき合いのあるところの皆さん方も展示をしていただきますので、そういう交流なども深めたい、このように思っているところでございます。内容等、会場等につきましては、お手元に配付のとおりでございます。

次に、本日の早朝、職員の非常参集訓練を行いました。これはいろんな災害があったときに、やはり職員がいち早く役所に来、またいろんなところに集合して初動体制をしっかりと、減災につなげていこうという目的でございますけれども、今回も大規模地震の発生を想定いたしまして、電話連絡網で職員の非常参集訓練を行ったところでございます。これは職員も限定をいたしております。そういう関係もありますし、またそういう対象の職員も出張中であつたり、また病気で休んでいるという人もおりましたので、302人を対象に行いまして、今日集まりましたのは222人ということで参集率は73.5%でありますけれども、今ほど言いました出張中等々を除いていきますと大体約80%ぐらいの参集率があつたかなというふうに思っているところでございます。日ごろ職員におかれては、当然地震などがあればその地震が発生した時点でわかるわけでありまして、そういうときには直ちに連絡がなくても駆けつけるというそのような体制などに役立てていきたい、このように思っているところであります。

次に、清掃センターへの持ち込みごみ受け入れ場の上屋が完成をいたしまして、6日までに検査が終わるということでありますので6日から供用開始をしたい、このように思っております。施設の利用件数というのは1日当たり平均で約160件の持ち込みがありまし

て、雨が降ったり、また雪のシーズンになりますと非常に分別したりそこで分けるのが大変だったんですけれども、上屋ができましたので、その下で雨に濡れず、雪に降られても大丈夫な状態で作業ができるなというふうに思っております。これもちょうどいいタイミングで、時期的にも雨も多くなるシーズンでありますので、また市民の皆さん方に周知をしてご利用いただきたい、このように思っております。

次に、台州市の友好親善使節団の受け入れ事業であります。姉妹都市であります中国・台州市人民政府のジャオ・ユエジン副市長を初め5名の皆さん方が下記のとおり訪問をされます。私ども最初、今、中国との尖閣問題というのもございまして少し懸念しておりましたけれども、全くそういうことは心配せずにぜひ友好をとということで来ていただきますので、ほっといたしているところでございます。日程等につきましては記載のとおりでございます。

次に、若狭牛食感祭の開催ということでありまして、物産フェアでありますとか、また朝市等のイベントで地元産の若狭牛、畜産加工品の試食販売を実施して地元産の畜産物の消費促進を図るというものでございます。JAさんの畜産部会と共催をいたします。日時は記載のとおりであります。

若狭牛、これは敦賀で育った若狭牛でありますけれども、1頭丸ごと仕入れて、すべての部位を3種類の形で市価よりも安く販売するというので、大体200キロから230キロの肉になるそうでございますけれども、これを販売したい。書いてございますけれども、若狭牛しゃぶしゃぶが1皿100円という非常に格安の値段、また串焼きもございます。ソフトクリーム等もございまして、こういうもので敦賀でもこのようなおいしい牛がとれるんだというような宣伝をしていきたい、このように思っております。

次に、公設地方卸売市場の活性化事業として、今年第2回目であります「市場で朝市」、これを開催いたします。これも日時はこのとおりでございます。約20の団体の皆さん方に参加をいただき、野菜、果物、農水産物の加工品、魚介類、お菓子もあります。また、イベントも実施をしていきたいというふうに思っております。チラシ等で宣伝をして、多くの皆さん方にこれも来ていただけるように今準備を進めているところでございます。

次に、教育フォーラム2010・敦賀の開催であります。未来を担う敦賀っ子を育てるためにということで、下野教育長のほうから「未来を担う敦賀っ子を育てるために」という演題で講演をいただいた後、パネルディスカッションを開いて、敦賀っ子の教育、子供たちをいかに育てていくかということを議論し、また市民の皆さん方に教育に対する思い等を知っていただけるイベントであります。

最後になりますけれども、敦賀マラソン大会であります。例年は2キロ、3キロ、5キロだったんですけれども、1.85キロというちょっと中途半端な距離でありますけれども、ゴールのところ非常に込むということで、150メートル手前にゴールを設定するというので150メートル短くなったわけです。これはたくさんの皆さん方で、やはりランナーが交錯したりいろんな安全面を考えてのことでございまして、1.85キロということになったところでございます。おかげさまで申込者数につきましては3年連続で過去最高となっております。コースは昨年と同様でございまして、これもぜひお天気、余り暑くなくても困りますけれども、さわやかな秋晴れで開催ができればなと願っているところであります。

私のほうからは以上です。

【広報広聴課長】 ありがとうございます。

それでは、ただいま市長のほうから発表いたしました9項目につきまして最初に幹事社より質問を賜りたいと思います。

【記者】 若狭牛の食感祭ですか、こういう若狭牛の販促イベントというのは初めてですか。

【市長】 初めてだと思います。

【記者】 今、若狭牛に力を入れていこうということになった理由というのはあるんでしょうか。

【市長】 特に力を入れようというよりも、いろんなものがあるというところでして、どうしても若狭牛というと小浜方面のイメージがあるんですけれども、実は敦賀でも育てて

いるということですので、私どもはそういうものがあるよということでPRすることもいいのかなと思っています。

【記者】 台州市の件ですけれども、もう少し具体的に、どういうやりとりをおやりになられたかというのを教えてもらってもいいですか。

【市長】 浙江省と福井県というのは友好提携協定書に調印をしました。ちょうど私が県会議員の時で1993年ぐらいだったですかね。私も議員として同行して行って、式典とか参加したんですけれども、その後に恐らく浙江省のほうから、浙江省にある市に福井県にあるよく似た市とおつき合いしたらどうだということがあったんじゃないかと思うんですけれども、台州のほうから何度かそういう担当者の皆さん方が敦賀に訪れていただいて、ぜひ姉妹都市をやりましょうということで訪問をいただきました。私もちょうど市長に就任した直後に、福井県の水仙楼というのが浙江省の杭州でちょうどオープン式の式典がございまして、私も参加させていただいたんですけれども、そのときにそのまま台州に入らせていただいて。それまでもいろいろとそういう協議もしていたんですけれども、正式に姉妹都市となった経緯がありまして、その後、私も何度か訪問しましたし、向こうのほうからも来ていただいていて、ちょうど今年は浙江省のほうからお越しになってくれる番になっておりましたので、来ていただきます。いろいろと施設を見ていただいたり。子供たちの交流も既に何度かやっておりますので、そういうような交流であります。

ただ、なかなか経済的に例えば港の航路がという話は、上海の大分向こうになりますので遠いという関係もございまして、経済的なおつき合いというのは今のところないので少し残念なんですけれども、姉妹都市という中でいろいろな交流はこれからも継続的に行っていきたいなと思っています。

【記者】 昨今の情勢なんですけれども、事前に何か副市長さんなり、向こうの市長さんから予定どおり行きますのでみたいな連絡はあったんですか。

【産業経済部長】 今年ははあちらから来るというのがスケジュールで決まっておりますので、事務的には淡々と進んでいましたし、尖閣諸島の話は余り出ませんでした、基本的に。

【広報広聴課長】 それでは、各社質問ありましたら発表項目について。

【記者】 参集訓練なんですけれども、100%にならない理由と、80%だと高いのか低いのか、どういう認識なんですか。

【市長】 100%にならない理由ですか。

【記者】 理由と、80%という数字を今、市長言われましたけれども、それを高いと見ているのか低いと見ているのか。普通100%じゃないと意味がないんじゃないかと思うんです。

【市長】 訓練ですから、全然連絡してありません。抜き打ちで。

【記者】 災害なんて抜き打ちに決まっているわけで、そんな事前の連絡があったら意味がないんじゃないですか。というのは予測できるならしたほうがいいんですけれども。これはなぜ100%にならないのかという理由と、80%という数字は、市長としては高いと思われるのか低いと思われるのか。

【市長】 それは確かにおっしゃるとおり地震になれば、その場で感じます。連絡をしようがしまいが自分のところが揺れるんですから。そのときには直ちに、今までもそういうことをやっていますので。当然、自分が被災した場合は出れません。自分が瓦れきに埋まって出てこいというのは無理ですけれども、自分の身の回りを確認して直ちに役所に集まる。例えば、普段言われている浄化センターなら浄化センターに集まるということは言っておりますけれども、それを訓練としてやりますので、なかなかそういうふうに連絡が行っても、いなかったりする人もいましょうし、いろいろな理由がありますので、100%になれば理想ではありますけれども。

それと80%でいくと、前回は大体78%か実質的にはあったんです。どうしてもやる時期というのはだんだんわかってくるんです。大体土曜日の朝にやっているということで。そうすると毎年やっていたら職員の皆さん方もぼちぼちあるなという意識も持たれるので、それでは訓練にならんということで本当に抜き打ち的に今回はやりました。ほとんどの人は知らない状況でやったわけでありまして。

そういう意味で、数字的には高いにこしたことはないというふうに思いますけれども、そういうものを通じて訓練していくことが大事だなというふうに思っています。

【記者】 それに付随してなんですけれども、残りの20%の方はこういった理由で今日来られなかったんですか。

【市民生活部長】 この参集訓練は6時に電話招集をかけました。そして、課の人数の多いところなんかは、末端の一番最後の連絡が行くまではやっぱり6時20分ごろまでかかったと思います。今現在このパーセンテージの数字は7時現在で入れてありますので、7時以降に到着した人間は除外してございます。そういったことから100%に限りなくならないということもありまして。要するに遠方の方から来ている人間もおりまして、片道20分や30分かかる人間もおりますから、7時以後、過ぎた人間はカウントしていませんので、7時5分に来た人間もいるということでございます。

【市長】 だから実質的には、連絡があったけれども今日は行かんという者はいないというふうに判断しております。

【記者】 参集訓練ですけれども、大体土曜日とかにすることが多かったというのは私もたしか記憶にあるんですが、年何回ぐらいされているんですか。1回だけですか。

【市民生活部長】 年に1回。昨年も1回、今年も1回、その前も1回です。

【副市長】 参集訓練としては、また防災訓練とかいろいろございます。

【市長】 非常時に集まる訓練は1回です。

【広報広聴課長】 ほかに質問ありますか。

ないようですので、発表事項の質問はこれまでとして、次は次第の3番目、フリーの質疑応答へ行きたいと思っております。

これも最初、幹事社のほうから、どうぞ。

【記者】 日本原電の敦賀3・4号機の増設で本格着工が10月中というふうに聞いておったんですけれども、今のところ音さたなしという状況かと思うんですけれども、何か日本原電のほうから市長は連絡を受けているのでしょうか。

【市長】 これはいろんな情報等、また保安院の審査状況などを聞きますと遅れることはやむを得ん状況だというふうに思っておりますが、正式に遅れて、例えばどのくらいには着工できるんじゃないかというお話はまだ聞いておりません。正式には聞いておりません。ただ周知の事実として、1次審査がまだ終わっていないのですから、かかれるわけがないということを考えれば、少し延びるなというふうに思っております。

そこで私ども保安院へ前もちょっと訪問して、やはり審査が、そういう増設が決まっているのなら速やかに経済界、またそういう期待している人は善は急げという形で期待をいたしておりますけれども、やはりどうしても安全審査、これは私どもの立場としてしっかりやってもらわなくてはならんものでありますので、やっていただくことはある程度時間をかけてもやむを得んというところがあるんですが、やはり審査する対象、例えばそういう地震の専門の先生とかそういう人たちがやっぱり少ないというんですね。いろいろ少ないという状況もある。それならやはりこういうときにこそ、例えば外国のそういう先生でもいい、招聘して安全審査をしっかり早くスピーディにやってほしいなということでお願いしてきておりますし、またこれからもそういうことであれば、今後日本の原子力事情、CO₂の対策問題、25%削減という大きな目標に向かっていく上で、原子力発電所もあと9基はどうしても増設をしなくてはならんという政府の方針でもあるわけでございますので、それならそういう安全審査をする体制もしっかり強化をして、やるのであれば前へ進めるような体制づくりをということで、また引き続いて、これは全原協という立場でも申し入れをしていきたいなというふうに思っております。10月着工については、厳しいということも認識いたしております。

【記者】 10月中に日本原電から何がしかの報告があるべきだというふうにお考えでしょうか。

【市長】 会社のほうとしてもいろいろスケジュール等をにらんでやっておりますけれども、やはり審査ということになると、これは原子力安全・保安院の一つの仕事でありますので、そこと連絡をとりながら調整をして、やはりちゃんとしたスケジュールがある程度見えませんと、わからないんですけれども延びます、それではいつ、いやそれはというわ

けにはいかないの、今いろいろ調整をされているんじゃないかなと思います。

私どもとすればできるだけスピーディにやってほしいんですけども、安全に係る部分についてはしっかりやってほしいというそういう気持ちでいっぱいです。

【記者】 聞かざるを得ないと思いますが、先日、渕上市議が市長選立候補を表明されまして、市長も前向きに検討すると言われたように聞いておりますけれども、記者会見の場ということですので、一応どういったお考えかということをお聞きしたいんですけども。

【市長】 議会の最終日に少し触れさせていただきましたし、一般質問の中でも堂々と出るんですか出ないんですかというご質問もいただいております、そういう観点からは、出馬については検討させていただいております。やはり4期、自分のやってきたことなり、いろんなことの反省も踏まえ、また市民としてどういうふうなことを望んでいるかということ、そういうこともいろいろ前向きな検討の中にも慎重に検討して、いろんなご意見を聞く機会を持ったり、また今私ども後援会を持っておりますのでそういう後援会のいろんな思いなども集約をして、またそういう正式に発表ができる時が来たらまた正式な場で発表していきたい、このように思っています。

【記者】 一応確認なんですけれども、前向きに検討しているのは市長選ということですよしいんですね。

【市長】 はい、もちろん。

【広報広聴課長】 それでは、各社質問ありましたら挙手をお願いいたします。

【記者】 今の関連なんですけれども、この間の議会のほうでは近くというふうな表現をされたと思うんですけども、近くというのはいつを指すのでしょうか。

【市長】 そうですね。なかなか近くというのは10年スパンで考えると二、三年も近いかもしれないし、来年の6カ月先ですので、その辺のうちの近くということでご理解いただきたいと思います。先ほども言いましたようにいろんなことを集約してまとめるのに。私も10月も出張等も結構ありますし、なかなかそういう意思確認する時間も短いものですから、そのあたりの時間調整をしながら。一般的にいう近くですから、年内も近いかもしれないし、その辺はすぐその近くということじゃないということを理解していただきたいと思います。やはりいろんな情報を収集してしっかりやるということです。

【記者】 今、市長が一般的というふうなお言葉が使われたので、我々にしてみると、近くということの一般的なことは、ここ一、二週間とか。

【市長】 それは認識の違いということで、ひとつ。

【記者】 年内では間違いない。

【市長】 それは間違いないと思います。

なかなかいろんな人としゃべる中で、本来ですと、ここも一つの間なんです。定例の会見。でも何かそういうときに言うのも何かかなと思うし、人によってはそんな大事なことは議会でやらなければならないと言う人もいます。ほとんどの首長さんがやっぱりそういう形で、議会の本会議場でそういうことを表明するのが多いので、それもやらなければいけないと言う人もいたり。いやそれはいけない、やっぱり自分で会見を設けてそこでやらなければいけないと言う人もおまして、いろんな意見が支援者の中にもあるものですから、その辺をよく調整をしてというふうに思っています。

【記者】 今のその発表の件ですけども、年内で、しかも議会の場で発表ということをおっしゃる方もいらっしゃるということになると、12月議会ですか。

【市長】 だからそういう意見もあるし、そうじゃなくてそういう会見場を設けて、日にはわかりませんが、それもいつになるかわかりません。でも近いと言うと誤解されますので、そう遠くない時期にそういう場所でやるのも大事だと。

なかなかこういう、今まで私どもの後援会というのは選挙がなかったんです。ほとんどなし状態で来たものですから、やはり選挙に出るよということの正式表明というのはある程度段階踏んで、根回しもして、こうやってこうやればやれますよということ踏むのが私どもの、まだ地方ですので。私も今度選挙をやるですと12回目なんです、父の時代から。父が実は市会2期やって、市長選1回チャレンジして、県会2期やったでしょう。僕が市会2期やって、県会へ行って、市長4期やっていますから。だから12回目の選挙をやってきていますし、私も父の市長選のときにはそういういろんな経験も持っていますの

で、そういうことをいろいろ判断していったら、今の状況で次の選挙になりますと、しっかりとそういうものを踏んでやるのも大事なかなというふうに考えていまして、いろんな思いを仕事の合間にも、寝る前にはちょっと考えていろいろ慎重に検討しています。

【記者】 検討しているというのは、今のお話を聞いていると、どういう形で発表をするかの検討をしていると聞こえてしまうんですけども。

【市長】 そうなんです。

【記者】 市長選というのは間違いないんですか。それ以外のものも。

【市長】 市長選の検討をちゃんとしています。

【記者】 日本原電の敦賀3・4号機の話に戻るんですけども、先ほど正式には聞いていないとか、スケジュールを詰めているとか、そういう話があったんですが、原電として10月着工は無理という情報は入ってきているんでしょうか。

【市長】 なかなか厳しい。例えばお会いしたときに10月着工を私どもは期待していますよということです。ずっとお話ししてきていましたけれども、なかなか安全審査のほうに思うように進まないというお話は聞きましたので、何とかそういうものに向かって努力はしているということですけども、正式に実は10月着工は無理で、安全審査のいろんな状況を見きわめて、では何年何月に正式に着工できるかということは、まだ聞いていないところです。

【記者】 あと、何かしら10月着工は無理というのを原電から伝わると思うんですけども、その際に次の目標は必ず設定するよう求めますか。

【市長】 そうですね。やはりはっきり。ただ延びますでは、これをもし聞いた市民の皆さん方にとると、じゃ一体いつということをお考えから、できれば何年何月には必ず着工できる体制になると言ってから正式にして来ていただいたほうが私は。そういうことになれば当然プレスで発表されることですので、聞いている市民の皆さん方にとってもわかりやすいんじゃないかなと思いますので、ぜひそういう見通しをしっかりと立てて、原子力安全・保安院のいろんな動き、審査の状況などもしっかりと状況を把握してから来ていただいたほうが私はいんじゃないかなと思います。

ただ、今どうしてもこんな状況で無理で、それではいつ、いやそれはわかりませんというような発表というのは、市民にとっては本当に一体いつになるんですかというような思いを持ってしまいますので、そっちのほうは私はいんじゃないかなと思っています。

【記者】 経済への影響みたいなことの懸念というものがありましたら、教えてください。

【市長】 やはり今までは大体今年の10月には着工しようということ動いてきていますので、それにある程度標準を合わせて、いろんなご商売をされる方も、工事が始まればいろんな人も入ってこられるし商売のほうも元気になるなという思いを持っていた方はたくさん私はいらっしゃるというふうに思います。そういう皆さん方にとってみると、これが延びてきたということは、それも実はもう何回か延びた、これはご承知のとおりでありまして、そういう意味では前に延びたものが10月ということでもとまっておいて、今回また延びてしまうということになりますと、経済的にはそういうことに期待をされていた皆さん方にとってはやっぱり痛手かなというふうに思っております。

ただ、会社の工事的には、大体の部分は終わりましたけれども、できるものからは発注していくということは会社のほうも言っておりますので、その部分で少しカバーはしているのかなというふうに思います。

【記者】 ちょっと話題は変わるんですけども、もんじゅと新幹線について、県の西川知事は3者協議の開催を国のほうに申し入れていくということで、どうしても新幹線の予算をつけるように、もんじゅを一つのカードとしていく考えなんですけれども、文部科学省の副大臣の地元選出の笹木さんは、逆にもんじゅと新幹線を絡めるのは無理があると。全く逆の見解なんですけれども、地元の市長として、まずもんじゅと新幹線の議論を絡めることについてのご意見と、あと新幹線の延伸そのものに対する市長のご意見を。

【市長】 私は、もんじゅと新幹線をバーター的にはしないということを明言しながら、市議会でもそういうご質問に答えてきたところでございます。私どもの市議会も実は大方の皆さん方がもんじゅと新幹線をバーターすべきでないという意見が非常に多いわけでありまして、そういう意味では、もんじゅはもんじゅとして、やはり私どもの立地地域が、

もんじゅがいい研究成果を出して、次のエネルギー確保、また資源のない日本にとって、また世界のそういう動きの中の役割を果たす立派な施設になってほしいという思いは持っております。

それと新幹線は、これは私いつも言っているんですけども、国が新幹線を国家のセキュリティ、いろんな危機管理上、国が作りたいた。ぜひ福井県、協力してくれというスタンスになってほしいと今も思っています。

話を戻すと、東海道新幹線、また東南海の地震、いろんなことが起き得る現状の中で、リニアが通るからいいんじゃないかという人もおりますけれども、出口、入り口がやられらそんなもの役に立ちません。その点、新幹線というのは駅もたくさんあって、特に北陸新幹線は全く逆の日本海に向かって走る路線ですから、そういうものが必ず私は役に立つと思っていますので、国が国家の危機管理上にやりたいから協力してくれというのが筋だと思っていますので。私どもとすれば、当然、地元のメリットもありますので、つくってほしいという運動は私は一緒になってやっていくつもりはしていますけれども、そういうようなスタンスに国になっていただけるように、今後とも十分働きかけをしていきますし、やはり新幹線を通すということは重要だと思っています。

当面要らないという人もいましたけれども、今頑張ったってできるのは当面先の話でありますので。しかし、今頑張らんとその当面もなくなってしまいますから、私どもは今しっかり頑張っていきたいと思っています。

【記者】 市長、関連でお尋ねします。今のお話の筋から行くと、3者協議については、もんじゅカードを切るかわりに新幹線をとというのが主な目的の3者協議ならば、それは必要がないというようなお話になってきますでしょうか。

【市長】 それは県の立場のスタンスですから、それは県の立場として十分やっていたいて、その切り札なりカードになってできることも一つの手段だというふうに思います。

ただ、敦賀として、もんじゅを持っている敦賀という自治体としては、そういうことはしないということを私言っていますし、新幹線というのはいつも言いますけれども、もんじゅがあろうが原子力発電所があろうがなかろうが要るものであるという認識をやはり国なりみんなが持ったほうが私はいいと思っています。

【記者】 では、鉄道絡みで駅舎の件なんですけど、今、市役所のロビー1階に2つ目の模型と、映像も流れていますけれども。アンケートをあちらは募っていますけれども、もうかなり意見は。

【建設部長】 アンケートにつきましては、今2件という状況でございます。

【市長】 もうちょっと集まってから、こういうアンケートと発表したほうがいいと思いますので。ただ全体的には、私は前の三角屋根も一つの特徴があったんですけども、今のやつは今のやつでまたいいな、趣があるなということで、何か全般的には今のほうが多くの皆さん方に支持をされているような雰囲気は感じます。いろんなところで話を聞く限りは。

【記者】 以前、新聞にも書いてありましたけれども、前の駅舎がいいとおっしゃった方もいるわけで、そこら辺の整合性をもう一度、副市長のほうから。

【副市長】 何回も繰り返しているいろんな場で申し上げているんですけども、今の案はかなり深化させたものなんです。深化というのはデザインを深めたという意味ですけども。という形の中で、かなり倉庫型から変わりましたよね。その説明はしなければいけないと思っています。

ただし、フォーラムとかいろんなアンケートとかをやっても大体興味を持っておられる方に限界があるので、今回はそういういろんなイベントに出かけて行って、そしてこちらからそういった、なぜこういうデザインになったとかということを説明していく必要があるだろうということです。10月中には何回かの場所に出かけて行って、多く人が集まるような場所に出かけて行って、1,000人ぐらいは集まるようなところですかね。そういうところへ出かけて行って、ぜひ説明を何回かやらせていただく。そのつもりであります。

【記者】 ということは、その場にいる市民の方の意見を当然集約されるんですか。意見を聞くんですか。

【副市長】 意見は聞きますが、大体ご存じのようにいろんな過程を踏んできたと思って

いるわけです。それを今さら倉庫の型から新しいデザインになって、これがどうですかという聞き方はするつもりはないんです。それは何回も申し上げているとおりで。

ただ、内部等について、いろんなご意見を持っている方はあると思います。ガラスのご意見とか、そういったことについては少し中身を見て、反映できるものは反映させていきたいというふうに思っております。

【記者】 以前、デザインの最終的なタイムリミットは9月いっぱいというようなことも副市長からお聞きしたんですけれども、もう10月に入りますね。

【副市長】 現実問題、もう詳細設計にはとりかかっていますから。完成はまだですけれども。そういった過程の中で取り入れるべきものの意見があれば、取り入れていきたいということです。

ですから繰り返しになりますが、デザイン等については概ねの審議過程は終わっているというふうに思っています。

【記者】 市長選に絡んでのことですけれども、市長は渕上さんに対してはどういった印象をお持ちですか。

【市長】 若い頭のいい、また大変礼儀正しい人ですから、頑張るといいますので頑張っていたらいいというふうに思います。

ただ、政治経験がまだちょっと少ないかなという印象がありますし、それと私ども議会の中ではほとんど反対をされている方でありますので、私どもの行っている路線とは少し違うなという印象は持っています。

【記者】 先月に福島県の佐藤知事と一緒に保安院のあり方についてご意見を述べられたと思うんですが、そのとき、どういうことをおっしゃったかというのと、いわゆる分離論という、もしくは統合論といいますか体制見直しについて、市長はどういうお考えなのかというのを。

【市長】 結構これを話すとまた二、三十分かかるので、また資料でお話ししますけれども、基本的には分離論を言う、例えば全原協の立場でいいますとそういう人もいらっしゃいますし。私どもはどちらかというところ、全原協の中で多いのは、実効性のあるやはり保安検査なり安全を守ることであったほうがいいんじゃないかと。ただ分けてしまえばいいというものではないというお話なども実はさせていただきました。例えば、いつも言うので悪いんですけれども、原子力行政という一つの車の中でアクセル部分とやはりブレーキの部分というのがあって、それぞれ実際、今も保安院等についてもかなりしっかりやってくるなという印象を持っておりますので、そのあたりについてははともかく実効性のあるものにしてほしい。それと見直しをするということについては歓迎をします。特に今、私いつも言っているんですけれども、原子力はCO₂対策にさあやってみようという、こういうときにこそ気をつけなければいけないと言ったんです。風向きがアゲインストじゃなくてフォローになって吹いてきた。そういうときにこそやはり足場をしっかり歩かせんとつまずいてしまうので、そのあたりをしっかりやってほしいということは言っていました。いろいろまた見てもらえればわかりますから。

【広報広聴課長】 ほかに質問ありますでしょうか。

ないようでございますので、本日の10月定例記者会見はこれにて終わりにさせていただきます。ありがとうございました。

【市長】 ありがとうございます。

午後2時2分 終了